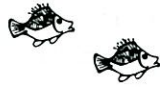


銀座水族館(七つの海の魚および水産切手)



—29—

三崎出張所 神原 勇

ハナミノカサゴ
 分類 カジカ目 カサゴ科
 学名 *Pterois volitans*
 英名 Lion fish, Zebra fish, Dragon fish

ミノカサゴは日本の中部以南からオーストラリア及び東アフリカにかけての亜熱帯・熱帯海域にかけて分布する。カジカ目の魚の殆どが沿岸の岩礁地帯に定住生息しているものが多いが、本種もその例にもれない。日本南岸では盛夏の頃、潮溜りで見られる事がある。

カサゴ科は多くの亜科に分類されるが、ミノカサゴの属するミノカサゴ亜科の多くのものは、いづれも大きな胸鰭と独立した棘のような背鰭の棘条がある。

ミノカサゴは体長約30cm位に達する観賞魚としては比較的大型の方に属する、体型は紡錘形で左右にやや偏し平たい。胸鰭はクジャクのオスの羽をひろげたように大きく良く発達し、胸鰭を一杯にひろげて岩陰にひそんでいるところや、ゆっくりと泳いでいる様子は華麗なものである。背鰭は13棘12軟条からできているが、棘条は独立したそれぞれの棘(トゲ)のようで、毒腺をもっている。

背鰭の軟条としり鰭は同じ位の大きさで、やや透明の地に暗褐色の斑点が見られる。尾鰭もしり鰭と同様の斑点がある。頭部には皮質突起や多くさんの棘があるが眼の直上突起は幼魚の時特に大きい。他のカサゴと同じようにゴツゴツした顔かたちはその身の華麗さに比べ、みにくさというよりはむしろユーモラスである。ミノカサゴは泳ぐので緩慢である上、人が近寄ってもあまり逃げないので捕獲し易く、餌やしやすいため、水族館での人気者である。

ミノカサゴの和名は大きな胸鰭の形がミノに似ている事に由来する。日本南岸での方言はかなり多くあるが、

九州ではミノオコゼ(ミノカサゴの毒性がオコゼと同様に激烈なのでオコゼと区別するための意である)ミノイオ・ミノイオ(何れもミノ魚)と呼ばれる。神奈川県三浦半島ではヤマノカミと呼ぶこともあるが、毒のある背鰭の棘条や大きなちぎれた胸鰭を一杯にひろげたところが、髪をふりかざして亭主にからみ、悪態をつく奥方にみだてたものようである。三重県の志摩半島ではマテシバシと呼ばれる。この魚を見たら捕へる事はしばらく待てよ、手をだすな毒があるぞという意味で、ミノカサゴの生態を良くつかんだ方言である。

英名は Lion fish, Zebra fish, Dragon fish はその体色と鮮やかな横縞模様由来する。

ミノカサゴの背鰭の棘条には毒腺が発達していて、他の毒をもっている魚と同様、中枢神経に作用する猛毒であるが、人間が刺されても死ぬようなことはない。

刺されるとうずくような痛みを覚え、紫色にはれあがり、人によってはその毒が全身にまわり心臓の動きが乱れることもある。この毒は中和剤としてのアンモニア水を用いても効果はない。傷口をよく洗い殺菌してから、ぬるま湯につけてゆるやかにむと良い。

このミノカサゴに良く類似したものに一キリンミノ(*Brachirns zebra*)がある。これは体形・体色は同じであるが胸鰭のひれ膜が殆んど先端までひろがっているので区別される。

× × ×
 × × ×

ハナミノカサゴ

分類 : カジカ目 カサゴ科
 学名 : *Pterois volitans*
 英名 : Lion fish

アフリカ、オーストラリア、ポリネシア、紅海等熱帯・亜熱帯海域、日本デハ相模湾以南に分布スル。体長20cm前後デハ30cmに達スル事モアル。稚魚ハ透明、幼魚ハ岩礁、水溜りに生息シテイルガ、ソノ色彩ハ成魚ニト鮮カデハナイ。総ベテノ鰭ヲ振りテ水中ヲ游子泳スル様ハ華麗ナモイデイルガ、オモヒ重ク、軟条部ハ多ク、日暮ニ毒包モツ有ス。



ニュヘブリジズ(英) -1967-



ニュヘブリジズ(佛) -1967-



モザンビーク -1961-



ベルギー -1968-



クリスマス島(印洋群) -1968-



タンザニア -1967-



英領インド洋地域 -1968-